



新しいごみ処理場のあり方について掛川・菊川両市議員説明会開催

3/4に環境資源ギャラリーで議員説明会が開催されました。

環境資源ギャラリー側が出した基本構想の説明、満水地区説明会の内容、今回補正予算が組まれ新たな「検討委員会」の説明などがありました。(非公開)

以下私の感じたこととです

一般廃棄物の処理は自治体の責務という原則はどうなるのか

今の施設は公設公営です。今回の案は民設民営です。監視しチェックできるというけど、もうけのために稼働する施設に市の責任が担保できるとは思えません。

大型ごみ焼却施設建設は、ごみ減量化、分別の徹底、産廃の減量化にも逆行

広域化、大型化という国の方針は時代錯誤では。現在の2倍の大きさの炉を作ってはごみは減らせない。むしろ事業系のごみの抑制もできないです。

地元説明もまともでできておらず、理解は得られていない

菊川への説明は掛川以上に不足している。満水地区説明会でも産廃の受入は認めないという発言が。

ごみ発電で儲けたい産廃業者の意図を汲むことを大前提に、市のごみ処理施設を民間企業のいう条件で建てる

市民電力会社「かけがわ報徳パワー」のブレイン早稲田大学の小野田教授が中心に基本構想を作っています。兵庫県の相生市でも全く同じコンビで同じようなPPP事業(公民連携方式)が先行しています。

掛川報徳パワーへの売電で産廃業者は儲け、市は公共の電力をごみ発電で賄うという前提で、これを進めたい研究者や業者の意向が反映していて、市民からの要望でつくられた計画ではありません。

焼却場は必ず環境に負荷をかける

ごみ焼却は必ずダイオキシンなどの有害物質もうむし、産廃を入れればこの危険性は格段に上がります。ごみの減量化が進むほど、採算を取るためにいろんなごみをかき集めることになるわけでその危険性が増します。

SDGsを推進している掛川市で環境政策の視点がないごみ処理はありません。

女性の意見が反映されていない

今までの過程に女性の委員はいません。今後ありません。

ごみの減量に取組んできた消費者協会などにも全く話がないし、家庭のごみ出しを担うことの多い女性の意見を聞く必要があるのではないのでしょうか。

新たな検討委員会にも当局側の意向が反映される

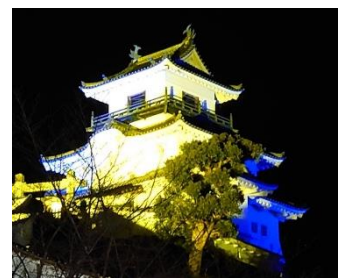
ゼロベースというけれど、きちんと根本に戻って検証する力があるのか疑問です。当局が選んできた委員や委託先が当局の出した計画を根本から考え直すとはどうてい思えません。

後で「こんなはずではなかった」とならないように両市の市民が我がごととして考えていく時間が必要です。

情報の開示は前提です。今後開かれる検討委員会は傍聴自由のことです。



市役所のしだれ梅



ロシアのウクライナ侵攻を受け、青と黄色(ウクライナの国旗色)でお城のライトアップ

ウクライナ原発への

攻撃に断固抗議!

一般市民を巻き込む戦闘が続き、日々死者が増え、戦禍を逃れての避難に疲弊しきつた子どもたちの顔を見ると胸が張り裂けそうです。原発への攻撃などが一筋の事があつたらどうなるか。核兵器禁止条約を発効させた世界への挑戦です。

議会でも会派としても求めていたロシアのウクライナ侵攻に抗議する決議が採択されます。

小児(5~11歳)のコロナワクチン集団接種が始まりました。
小児のワクチン接種は、努力義務(接種を受けるように努めなければならない)ではありません。
ご家族でよく話し合って接種を判断して下さい。
(掛川市公式LINEより)